

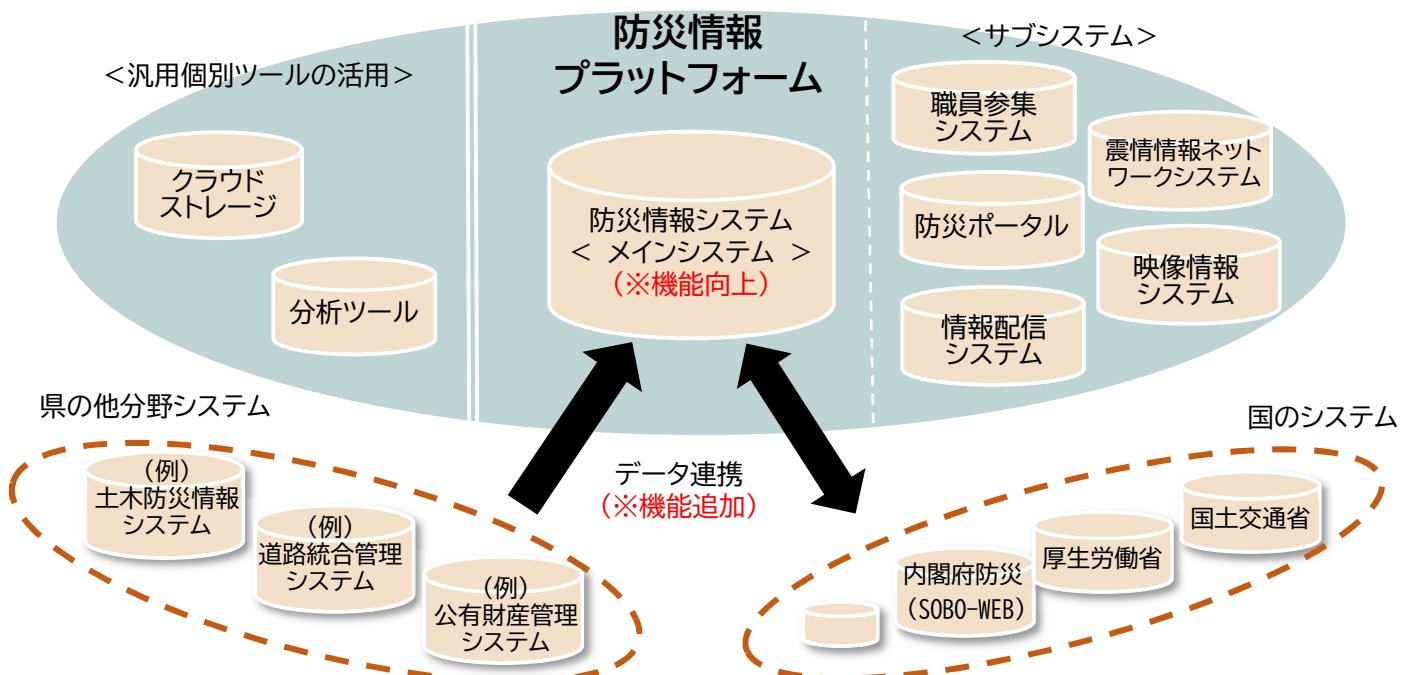
滋賀県防災情報プラットフォームの整備について

1 概要・経緯

- (1) 滋賀県防災情報システム（以下「現行システム」という。）は、災害発生時における県内の被害情報等の収集、防災関係機関との共有および避難に関する情報等の発信などを行うためのシステムである。平成28年度の運用開始から約10年が経過している。
- (2) 現行システムは、過去の災害発生時において、発災当初に災害の全体像把握や情報の収集・とりまとめに時間がかかり、ホームページ等での情報発信に即時性がないといった課題が明らかとなった。
- (3) 現行システムを主軸に、他のシステムとの連携など、より実効性のある防災情報の収集・共有・発信を目的とした仕組み（防災情報プラットフォーム）の構築に向け、調査・検討を令和5年度から進めてきたところである。
 - 基本設計（調査・検討）業務（令和5年8月～令和6年6月）
災害対応業務に係る課題調査と業務フローの見直しを行い、防災情報プラットフォームの基本設計を作成。
 - 実施設計業務（令和6年11月～令和7年7月）
基本設計に基づき、市町と関係機関で構成するワーキング会議での意見等を踏まえて、システムの詳細な設計を進め、要件定義書や調達仕様書等を作成。

2 防災情報プラットフォームの整備の概要

- ・防災情報プラットフォームの整備イメージは下図のとおり。



・現行システムの課題を踏まえ、以下の機能を追加。

(1) 課題

- ア 国の総合防災情報システム（SOBO-WEB）が令和6年4月に運用開始しており、データ連携を進める必要がある。
- イ 県庁内や5市において個別システムが運用されている部分があり、二重入力となっている。
- ウ 県から市町防災部局や各消防本部へ対応状況等を電話で問い合わせしている。
- エ 災害対策本部において被害情報等の整理を手作業で行っている部分があり、情報の集約に手間どっている。
- オ 関係機関だけでなく県民の迅速な避難行動に活用できるような、リアルタイムな情報発信が必要である。
- カ 日本語に不慣れな外国人等に対し、災害情報が十分に伝わらないおそれがある。
- キ システム上では災害対応の実績が個別の災害ごとにしか確認できず、過去の実績の集計が煩雑である。

(2) 追加する機能

- ア SOBO-WEB や土木防災情報システム、現場から災害対策地方本部への被害状況等報告用システムなど他のシステムとの連携
- イ 5市の入力情報の取り込み機能（ただし、取り込むためには市のシステムの改修が必要）
- ウ 県から市町防災部局および各消防本部へシステム上での問い合わせ機能
- エ システムに集約された情報をグラフ、一覧、地図形式等で表示するダッシュボード機能
- オ 県や各市町等の、自組織のアカウントによる配信機能（例：LINE、X（旧 Twitter）、防災メール）また、一度の操作で複数メディアへの一斉配信機能
- カ 防災ポータルサイトにおける、やさしい日本語への対応機能
- キ 災害対策本部や避難所の年間設置回数等の集計機能

3 スケジュール

令和7年10月下旬	入札公告
令和7年12月～令和8年1月	総合評価方式で事業者を選定。契約締結
令和8年2月～令和9年3月	システム構築
令和9年2月～3月	試行運用（現行システムと並行稼働）
令和9年4月	運用開始

令和5年度			令和6年度			令和7年度			令和8年度			令和9年度		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	基本設計			調達準備		実施設計			調達準備			構築		防災情報プラットフォーム運用
現行防災情報システム										※保守契約延長予定				

現行防災情報システム

